

第1学年 学級活動指導案

1 日時・場所 平成20年6月11日(水) 1時30分～
教室

2 議題名 「じぶんのしごとを すすんでやるための
くふうをかんがえよう」

3 議題について

入学してしばらくした時、一人の男子がクラスの子童の名札を並べていた。次の日、朝の会で「ちゃんが昨日みんなの名札を並べてくれたよ。先生は助かったよ。みんなの帰った後、名札を並べるのは大変だったからね。」と話した。すると何人かの子童が「僕もやりたい。」「私もやりたい。」と手を挙げた。

そこでクラスの全員が「じぶんのしごと」をもつことにした。教室の中を歩いて「しごとみつけ」始めた。「ひとりひとりがじぶんの仕事を見つけること。まねっこはしないこと。」「毎日できる仕事であること。」という約束を決めて探した。

1年生は自主的に「じぶんのしごと」をするのは難しいので、しばらくは休み時間にしごとをする時間を作ったり、授業時間の一部を充てたりして全員で一斉に「しごと」をした。何回かこの方法で「しごと」をしていると子童から問題点が出された。

「毎日やることができないしごとがある。」という意見があがり、学級会でその原因について話し合った。「花壇に水をあげるしごと 雨が降るとできない。」「先生がやっちゃう。」等の問題点がでてきた。そこでもう一度「じぶんのしごと」を見直す事にした。その結果「どうしても毎日できない仕事は変えてもよい。」「先生は絶対にみんなのしごとをしてはいけない。」この二つの約束を決めた。「電気をつけるしごと」の子童は少し早く学校にきたり、「ブロックを並べるしごと」の子童に周りから「やった?」と声をかけたりして「じぶんのしごと」に対する意識が少しずつ一部の子童の中に出始めてきた。

「朝の挨拶は誰?」と教師が尋ねると「えー誰だっけ?」「僕しごとを変えたから誰かわかんないよ。」という答えが多くなってきた。そこでみんなで考えて、「しごとのメモ」を作るとわかりやすくしているのではないかという事になった。このメモができてからはメモを見ながら仕事をするようになってきた。

仕事をするのがとても好きで、最近はクラスの友達が仕事をしてくれる事で、電気がついたり、連絡袋を配ってもらったりすることが自分たちの生活に役立っている事や、よりよくなるということに少しずつ気がつき始めている。友達が仕事をしていると「ありがとう。」という言葉が聞こえるようになった。

「じぶんのしごと」をするようになって、2ヶ月がすぎた。おおかたの子童は楽しんで続けているが、中には忘れてしまったり、言われないとやらない子童もいる。

また「困っていること」を感じている児童もいるので、本時では「すすんでしごとができるためのくふう」「困っていることを解決しよう。」の二つについて話し合いをしたいと思っている。また机を使わずに児童同士の距離をできるだけ近くすることで、友達の意見を真剣に聞いたり、自分の意見を発表したりして、話し合いに参加しているという気持ちを持たせたいと考える。

4 評価規準

活動への関心・意欲、問題への気づき	集団の一員としての思考・判断	自主的・実践的な活動・態度
<ul style="list-style-type: none"> ・学級内の諸問題について気づいたり、関心を持ったりして進んで解決を図ろうとしている。 ・学級内の組織作りや仕事の分担処理など、学級や学校の生活の向上を目指し、友達と協力をして自主的にとりくもうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の一員としての自己の役割を自覚し、友達と協力しながら学級や学校生活上の諸問題などの解決の仕方、学級や学校生活の充実と向上のはかりかたについて考え、判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや係、集会などの活動で、自己の考えを表現し他の児童の考えも生かしながら、進んで問題解決を図ったり、役割を分担して活動したりする。

5 活動の実際

(1) 事前の活動

月日	活動の場	活動の内容	評価()と支援()
4月11日	学級活動の時間	「しごとみつけ」	自分のやりたい仕事を進んで見つけている。(活動への関心、意欲、問題への気づき)
4月15日	中休み	まだしごとがみつからない人の「しごとみつけ」	
4月24日	帰りの会	「じぶんのしごと」のふりかえり	困っていることや、頑張っていることのふりかえりをしている。(自主的・実践的な活動態度)
5月9日	朝の会	「しごとのメモ」を作ろう	自分の仕事が進んでできるように考えている。(集団の一員としての思考・判断)

(2) 本時の活動

ねらい 「じぶんのしごと」をより楽しくできるように工夫できるようにする。

活動計画

児童の活動	評価()と支援()
1 アイスブレイキングのゲーム	児童一人一人が楽しくなるような雰囲気を作る。 学級会は「困った事を解決する場」であることをもう一度確認し「よく見て、聞いて、考えて」話し合いをすることを伝える。 自分の困っていることを言うことができる。 (集団の一員としての思考・判断) 友達の困っていることを聞いて、考えたり、自分の思ったことを言うことができる。 (集団の一員としての思考・判断) 多くの意見が出しやすい雰囲気を作る。 発表の仕方や態度の良かったところを取り上げて誉める。
2 はじめのことば	
3 議題の提示、確認	
4 話し合いのめあての確認	
5 話し合い	
6 決まったことの確認	
7 先生のはなし	
8 おわりのことば	

(3) 事後の活動

活動の場	活動内容	評価()と支援()
中休み 昼休み	「じぶんのしごと」に意欲的に取り組む。	自分から進んで仕事をしようとしている。 (関心、意欲・問題への気づき)